

2012年 7月26日・「長崎新聞」社会面では

原発事故は「核災」

教訓込めて 218 人詩集 本県数人の作品も掲載

福島第1原発事故の教訓を世界に発信するため国内外の詩を集めた「脱原発・自然エネルギー 218 人詩集」がコールサック社（東京）から発刊された。編者らが25日、都内で会見し「原発事故を繰り返さないため世界の人々に読んでほしい」と呼び掛けた。

「脱原発から自然エネルギーへの転換には道しるべとなる原典が必要」との観点で編集。原発事故前後に創作された関連の詩を収録した。本県関係では志田昌教さん（佐世保市）、河野洋子さん（長崎市）ら数人の作品を掲載している。

「予知されていた悲劇」をはじめ「繰り返された過ち」「メルtdownを見つめて」「悲しみの場所・福島」「脱原発の神話を」など11章で構成。日本語作品には英訳、外国語作品には日本語訳を付した。

編者の1人で福島県南相馬市在住の詩人、若松丈太郎さん（77）は「なぜ辺ぴな所に原発を造るのか。原発の怪しさを意識して暮らしてきた。原発事故は事故ではなく『核災』。戦後の民主主義のいいかげんさを露呈した」と話した。

A5判624ページで3千円（税別）。全国の有名書店で発売している。（大場泰造）

と紹介されています。